

OMG が BPDM、BPMM、金融フレームワーク標準化で前進

Business Process Trends

編集長・共同創業者 ポール・ハーモン

オブジェクト・マネジメント・グループは、ビジネスプロセス標準の最も重要な触媒としての役割を引き続き果たしている。今年3月にサンディエゴで開催された OMG 技術委員会総会、そして6月にブリュッセルで開催される総会において、新しいオープンなビジネスプロセス標準化のイニシアティブがスタートする。他方、OMG 主催の第3回 BPM カンファレンス BPM THINK TANK 2007 は、7月23-25日にサンフランシスコでの開催が予定されており、BPM の標準化に関心を持つ方にとっては、今年最大のイベントとなろうとしている。この Advisor では、読者の皆さんに、OMG のビジネスプロセス関連の目下の活動の範囲と焦点について、アイデアを提供していきたい。

BPMI

Business Process Management Initiative (BPMI)は、OMG 内での専門グループとして活動しており、OMG との合併以前から行っていた教育・普及活動を拡大させている。グループは OMG 技術委員会総会で会合を持ち、OMG とともに BPM 関連の活動を計画、推進しているが、その中に BPM Think Tank も含まれる。BPMI についての情報は、BPMI のサイトを参照されたい。(www.bpmi.org)

OMG のビジネスプロセス標準

OMG の標準化作業は、ソフトウェア標準を扱うテクニカル・タスクフォースと、ビジネスマネージャーが関心を持つ、より広汎な標準を扱うドメイン・タスクフォースに分かれて行われる。ビジネスプロセス標準を主要な対象とするグループは、Business Modeling & Integration Domain Task Force (BMIDTF)であるが、これまでこの TF は4つの標準を採択してきた。

1. Business Motivation Model (BMM) : BMM 仕様は、事業計画に関わる立案、情報交換、実施を組織的に行うためのスキーマないし構造を提供する。特に以下を行う。

- ・事業計画の策定を導く要素を明確化する
- ・事業計画の要素を明確化し、定義する
- ・これら要素・要因間の相互関係を明示する

これらの要素には、ビジネスを統制し、誘導するものとして、事業方針(Business Policies)とビジネスルール(Business Rules)を含む。

2. Business Process Modeling Notation (BPMN) : ビジネス関係の人は、フローチャート形式でビジネスプロセスを可視化することに慣れ親しんでいる。企業の業務分析・設計を行っている、何千人ものビジネスアナリストがビジネスプロセスを単純なフローチャートで定義してきた。それによって、ビジネスプロセスの最初の設計の形式と、定義されたビジネスプロセスを実行する、BPEL4WS のような言語の形式の間のギャップが生まれている。このギャップは、可視化されたビジネスプロセス (表記) を適

切な実行形式 (BPM 実行言語) に変換できる、形式的 (数学的) メカニズムで橋渡しをしてやる必要がある。

ソフトウェアエンジンのレベルでなく人間レベルでのビジネスプロセスの表現形式は、Business Process Modeling Notation (BPMN)の標準化で解決できる。BPMN は、ビジネスプロセスを設計し管理する人々のために開発された Business Process Diagram (BPD)を提供している。BPMN はそれだけでなく、BPM システムの実行言語 (BPEL4WS)への形式的な変換も行う。BPMN はこのように、実行可能なビジネスプロセス言語で定義されたビジネスプロセスに対する可視化メカニズムを提供するのである。

3. Semantics of Business Vocabulary and Business Rules (SBVR): SBVR はビジネス語彙、ビジネス上の事実、そしてビジネスルールの意味を定義し、同時に組織やソフトウェアツールの中でビジネス語彙とビジネスルールを交換可能にするための XML スキーマを提供する。

4. Workflow Management Facility (WMF): WMF は、ワークフローの実行制御、監視のための標準的なインタフェースを定義し、独立して定義・管理されるワークフローの間の相互運用を可能にするものである。インタフェースはワークフローオブジェクトのモデルに基づいており、申請者(requester)、指定(assignment)、資源(resource)との関係や依存性の記述を含む。

現時点で、BMIDTF が活動中あるいは検討中の標準は下記の 5 つである。

1. Business Process Definition Metamodel (BPDM) : 本提案は、本来どのビジネスプロセスモデリング表記にも対応できる形式的メタモデル表記を定義する目的で開発が始まった。このようなメタモデルは、特定のビジネスプロセス定義言語に依存しないという意味ではプラットフォーム非依存で、企業の中で (必ずしも人手を介さずに) 実行可能なビジネスプロセス仕様を記述する抽象言語を定義する。そして別の事業部門や企業で、上記とは独立して実行されるビジネスプロセスとの協調も可能とすることはであった。しかし、BPDM が検討され開発されていく過程で、OMG は BPMI と合併し、BPMI の BPMN を標準として受け入れた。BPMN には形式的なメタモデルはないため、BMIDTF は BPDM と BPMN の次期バージョンを合体させ、BPDM を BPMN のメタモデルとすることを決定した。

2. Production Rule Representation (PRR) : OMG にはすでに公式のビジネスルール標準 (SBVR)があるが、この RFP は、推論技法を使ったルールを処理するソフトウェアシステムのためのルール表記の形式標準を策定するものである。

3. Organization Structure Metamodel (OSM) : この RFP は、組織構成の記述に使われるメタモデル、および最低 1 個以上のディレクトリスキーマ製品へのマッピングの提案を要請している。組織構成のメタモデルは、組織体とその属性、相互の関係、配属される人員を表現するためのモデリング要素から構成される。このメタモデルは企業体の組織構成を定義、分析、修正できるものでなければならない。コンセプトと関連情報はビジネス用語を使って定義され、多様な組織形態を表現できるものでなければな

らない。さらにこのメタモデルは、将来の組織変更をも記述できるものである必要がある。この仕様はメタモデルから実行時のディレクトリスキーマへのマッピングを提供し、さまざまなアプリケーションに対して一貫したデータ構造を提供しつつ、実行時のパフォーマンスに必要なスキーマの要件も満たすことが求められている。

4. Business Process Runtime Interface (BPRI) : この RFP は、ビジネスプロセスの実行時インタフェースのためのプラットフォーム非依存モデル(PIM)の仕様提案を要請する。ビジネスプロセスはワークフロー管理だけでなく、電子商取引や Web サービスのためのプロセスをサポートする、多種多様なアプリケーションを対象としなければならない。この RFP にはビジネスプロセスを定義するモデルは含まれず、実行時のビジネスプロセスへのインタフェースのみを要請している。ここでのビジネスプロセスは、ビジネスプロセスの定義の実行において連携・制御される一連の活動を意味する。この活動は、人間やコンピュータ・アプリケーション、協調して業務目的を達成する別のプロセスなどによって実行されるものである。ビジネスプロセスの進捗と現況は、他の活動の開始と完了、プロセスの実行における主要イベントの発生を反映する、プロセスに関わる状態によって示される。ビジネスプロセス実行時インタフェースのための仕様は、プロセスの起動、監視、制御を行う、プラットフォームに依存しないインタフェースを定義し、それにより複数のプロセスが協調しつつ活動を実行することが可能になる。また、これらの仕様は、BPRI のプラットフォーム非依存モデル(PIM) から、ビジネスプロセスを実行する、既存のプラットフォーム特化モデル(PSM)1 個以上へのマッピングを提供することになる。特に、CORBA ベースの WFM 仕様は必須とされる。

5. The Business Process Maturity Metamodel (BPMM) : この「標準」は、他の OMG の標準とは毛色が異なっている。それは BPMM が、ビジネスプロセスの評価のための広範囲な成熟度モデルを定義し、評価基準も提案しているからである。本質的に、これは組織がビジネスプロセスの変更を効果的に管理するために必要な管理プロセスを開発するための方法論を提供するものである。これまで BMIDTF はメンバーに対して Request for Comment (コメント要請) を発行して、標準化へと進むべきかどうかの判断を求めた。

現在 BMIDTF で検討されているこのイニシアティブとは別に、ほかのグループでさらに技術的な標準の開発が進められている。それには、SOA と個別の統合標準とをリンクする方法や、特定用途向けのプロセス標準の開発などが含まれる。

Reference Model for Financial Services : 後者で注目されるのは、金融サービスのためのビジネスプロセスフレームワーク、すなわち参照モデルである。この RFP の目的は、RFI において次のように設定されている。

「フォーマルな口座開設と資金移動に関わる金融プロセスのモデリングは、金融サービス産業全体にとって、ビジネスプロセスの効率性、安全性を高めるための広汎な活動の第一歩である。これらのプロセスの参照モデルは、企業間の金融サービスネットワーク全体に対してセキュリティ上の問題を啓蒙し、機密に関わるデータの生成、搬送、使用に関わる金融プロセスの高度

化を可能とするアーキテクチャのフレームワークを提供することを目的としている。金融サービス産業とそのサプライヤーは、これらの参照モデルを使って、他の機関と協調しながらセキュリティ方針と管理の改善を行うことができるようになる。とりわけ、セキュリティ上の問題に起因する既存のプロセスの冗長性と非効率性を減らすことを目指している。」

現在の RFP は、Financial Domain Task Force (FDTF)から発行され、以下の 2 項目に関する提案を求めている。

- 口座開設と資金移動のプロセスに関する標準参照モデルの定義
- 上記の参照モデルに基づき、セキュリティとプライバシーの実現メカニズム、プロトコル、ポリシーの改善のために定義されるアーキテクチャのフレームワーク

この RFP は、OMG FDTF RFI* (金融ビジネスプロセスのハイレベルモデル) への回答を集約する目的で、ニューヨーク、セントルイス、サンフランシスコ、ロンドン、ローマの各都市で行われ、金融サービス産業の延べ 100 社以上が参加した一連の秘密会の内容を反映している。この RFP は、金融ビジネスにおけるセキュリティの向上のために必要なものを定義するのが目的だが、提案されたアプローチは他の分野でも適用可能である。

*High Level Models of Financial Business Process

<http://www.omg.org/cgi-bin/doc?finance/2006-03001>

Federal Transition Framework Metamodel : いま一つ興味深い活動が、政府関係タスクフォースで行われており、Federal Transition Framework (FTF)のメタモデルを定義する作業を進めている。連邦政府の事業を、より市民中心、結果志向、市場ベースのものとするための大統領の管理工程表の一環として、合衆国行政予算局(US Office of Management and Budget=OMB)は、省庁のプロジェクト関連情報の編成、共有、カタログ化のための標準規格として連邦標準 Federal Transition Framework (FTF)を策定した。これは政府の EA 指針である US Federal Enterprise Architecture に準拠している。

最初の FTF フレームワークの XSD 表記は、OMB で作成された。OMB と OMG は、このフレームワークを MOF ベースの業界標準として普及させるべく、共同作業のロードマップを設定した。眼目とするところは、連邦と州政府のレベルにまたがるものを含む省庁間のイニシアティブにおいて、エンタープライズアーキテクチャの情報を、市場にあるツールやリポジトリを使って管理、検索・利用できるようにするための標準である。こうしたツールはまた、FTF や連邦 EA 標準の基づく各省庁内の EA の高度化をサポートすることも期待されている。このロードマップの上に立って、RFP はアーキテクチャの中身を構造化し管理するための方法を定義する FTF のメタモデルを求めているわけである。

<http://www.whitehouse.gov/omb/egov/a-2-EAFTF.html>

技術委員会総会

OMG は毎年 4 回の技術委員会総会を開催する。今年最初のミーティングは 3 月にサンディエゴで行われ、BMIDTF は BPmm、BPDM、PRR、BPRI を討議し、BPMN/BPDM 2.0 の合体を決めた。またビジネスルールとビジネスプロセスの統合についても議論した。次のミーティングはブリュッセルで 6 月 25-29 日に開催される。この総会で、BMIDTF は Business Process Maturity Metamodel (BPMM) をレビューし、おそらく採択プロセスに乗せることを勧告する。また、BPMN 2.0 と Business Process Definition Metamodel (BPDM) の統合の草案を検討するだろう。このほかでは、Production Rule Representation (PRR) の修正案を審議し、ビジネスルールとビジネスプロセスの統合に関する議論を行う予定である。同じ総会で、BPMI 運営委員会の 4 つの空席を埋める選挙が行われ、6 月 27 日には 7 月に開催する BPM Think Tank の試行版が、ヨーロッパの人々を対象に開催される。

BPM Think Tank

最後に、OMG 主催による BPM Think Tank についてふれておきたい。特定の標準をめぐって活動する他の標準化団体とは異なり、OMG はビジネスプロセスに関するすべての標準に幅広い関心を持っている。これは 2005 年に OMG が BPMI と合併して以来受け継いできたもので、旧 BPMI 関係者は、OMG 内でスペシャルインタレスト・グループ(SIG)をつくり、ビジネスプロセスの普及と、企業における導入支援のために活動している。彼らは、OMG で策定される標準だけでなく、標準ビジネスプロセスに関わるプロフェッショナルが、標準を構築し組み合わせる上で不可欠なコンセンサスをつくりだすことに大きな関心を寄せているのである。

今年の BPM Think Tank は、7 月 23-25 日の 3 日間、サンフランシスコで開催されるが、OMG と BPMI が主催者となって 3 回目となる。BPM に関するカンファレンスは多いが、ビジネスプロセスに関わる標準の開発、改善、管理を取上げる点で独特なものである。それだけでなく、このカンファレンスは参加者が進んで、業界が必要とする標準についての議論に参加できるように構成されている。もちろん発表とパネルはあるが、時間の半分は円卓での座談で、全員が参加してビジネスプロセスの重要問題を検討し、どのような標準が必要かについて議論する。カンファレンスの結果は文書化され、従来の標準化活動の総括と、将来の方向に関する提言がまとめられる。今年のカンファレンスは、これまでになく包括的なもので、ビジネスとテクニカルとの 2 つのトラックに分かれる。ビジネストラックではビジネスプロセスフレームワーク (SCOR、VRM、ACORD、eTOM など) のほか、OMG のプロセス成熟度モデル、プロセスとルールとの関係などが議題となっている。テクニカルトラックでは、BPEL、UML と BPMN、BPDM の 3 者の関係、BPMS アプリケーションの開発に必要な標準などが議論される。

私も今年のカンファレンスの共同議長を勤めており、BPTrends も協賛しているので客観的な立場から発言することはできないが、ビジネスプロセスに関するさまざまな側面を代表する、各国の優れた人々とともにプログラムを作成した当事者として、もしあなたがビジネスプロセス標準化の現在と将来の動向に関心をお持ちならば、BPM

Think Tank こそ、参加すべきイベントだと申し上げておきたい。

<http://www.omg.org/news/meetings/ThinkTank/>

OMG とビジネスプロセス標準

オープンな国際標準を開発するのは骨の折れる仕事である。例えば「プロセス」とか「ビジネスユニット」についてのソフトウェアインタフェースと用語に関して厳密であることは容易ではないし、ビジネスルールの正確なシンタックスを定義することも難しい。その上、利害関心を異にするさまざまな組織が、時に対立し、時に妥協して調和に至るので時間と忍耐も必要である。しかし他方、ビジネスプロセス技術に投資する企業がますます増えるにつれて、標準化に対する関心も確実に高まっており、一つのツールで始まった努力が別のツールでも引き継がれ、一つのツールで開発されたルールは、別の製品で開発されたプロセスでも使うことが出来るという一種の安心感がうまれている。

ある地理的範囲の中で右側通行か左側通行かを決め、赤信号で停止、青信号で進行することを運転者が合意できるならば、われわれ全部が恩恵を受ける。われわれのほとんどは、ビジネスプロセスの世界においても同じような合意をつくりたいと望んでいる。OMG はビジネスプロセス標準に関して活動する代表的な標準化団体の一つとして発展し、すべてのビジネスプロセス標準が、それぞれ連携して企業や組織を支援する方法について幅広い合意を形成すべく活動している。ではまた次回にお目にかかりたい。☆

著者紹介



ビジネスプロセス管理に関する最も権威ある情報源で、動向分析、市場予測、ベストプラクティスに関する情報・分析を提供する Business Process Trends (BPTrends) 誌の共同創業者、編集長およびシニア・アナリスト。同時に BPTrends Associates の共同創業者、方法論開発者、主席コンサルタントとして、ビジネスプロセス管理の理解と実現を求める企業のためのコンサルティング、企業幹部教育、トレーニングサービスに従事してきた。

BPM ソフトウェア製品に関するレポートとして最も広く読まれている BPTrends Product Reports の共著者兼編集長であり、またベストセラーとなった Business Process Change: A Manager's Guide to Improving, Redesigning, and Automating Processes (2003) の著者としても知られる。名実ともに BPM のリーダーであり、コンサルタント、教育者、著述家、市場アナリストとして、新技術と方法論を使って現実のビジネス課題を解決するために貢献してきた。世界中のカンファレンスで基調講演者として活躍するほか、幹部向けセミナー、ワークショップ、ブリーフィングを企業に提供している。

BPTrends

BPTrends は、世界中の経営幹部やプロセス改善専門家の判断に役立つインテリジェンスを提供している。業界の指導的理論家たちが、ビジネスプロセス管理の全側面に関する動向と将来、ベストプラクティスに関する分析、見解を披歴する場となっている。BPTrends BP Tools Reports は、BP ソフトウェアツールに関するレポートとして最も汎に読まれている。BPM 専門のプロフェッショナルサービスを提供する BPTrends Associates は、コンサルティング、幹部教育、トレーニング、メンタリング等を提供し、ボストン大学と提携して BU BPM Curriculum and Certification Program を提供している。